



都島 憲法九条の会 7周年のつどい に出演します

第1部 力強い男声合唱の魅力をたっぷりと――

男声合唱団「昴」

曲目

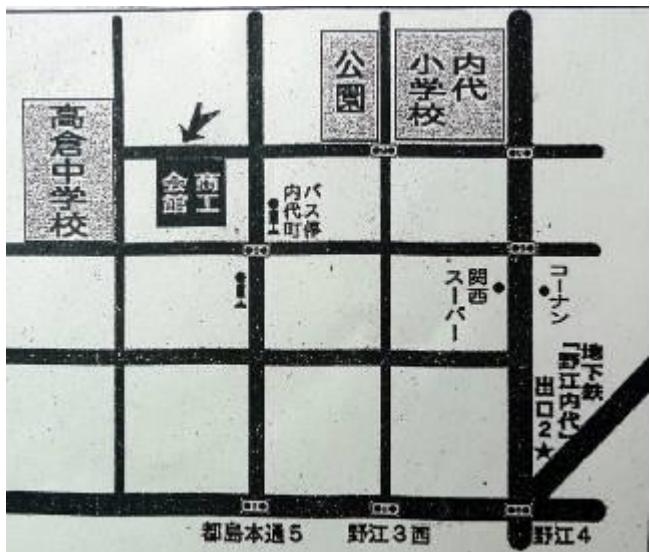
百万本のバラ	シルクロード
死んだ男の残したものは	ねがい
フィンランディア	林道人夫
歓びのナーダム	なぜ

都島 憲法九条の会 7周年記念のつどい
音楽と講演のつどい
12月4日(日) 2:00~ (開場1:30)
主催 都島 憲法九条の会 連絡先 電話 090-6671-1864 (三谷)

第2部 平和で、戦争のない社会のために――
講演
弁護士 西 晃 さん
「憲法を愛えよう」という動きが、
西が活動になりました。國会でも松原
な動きが始まっています。
活動の状況。私たちの課題を学んでみましょう。
演題 民主党政権下の改革の動きと、
私たちの課題

【会場】都島商工会館
地下鉄「野江内代」から徒歩5分
内代小学校と高倉中学校の間の道にあります

12月4日(日) 集合13時
都島 民主商工会館



地下鉄谷町線 野江内代 出口② から徒歩10分

□青シャツ、九条バッジ

- ・シルクロード・なぜ・死んだ男の残したものは
- ・百万本のバラ・ねがい・歓びのナーダム
- ・フィンランディア

前号から続く

IN 陸前高田&大船渡

東日本大震災復興支援

「私の好きなこの街コンサート」

□「タクミ印刷」の前社長の及川さんが、みんな歌う会で「見上げてごらん夜の星を」をソロしてくれました。リズム感のある伸びやかな本格派の美声で、誰かが「昴に入ってほしい！」。

□記念品を沢山用意して行きました。会場で、女性陣に、番号札と引き換えに渡して頂きました。記念品は永井さんの「絵手紙」と本「心のかけはし」、村嶋さんの手づくり「ひまわりのユサージュ」と「マフラー」、「昴ベストアルバムCD」、高田和弘さんの自家窯製伊賀焼湯呑、三村の手づくり「九条ペンダント(ストラップ)」と「奇跡の一本松フォトスタンド」でした。数



が充分ありましたので、この会場で配りきれなかったものは全部、大船渡の老人ホームに寄贈しました。

□プログラムは一部時間の都合でカットして次のようにでした。

「私の好きなこの街コンサート」

指揮 本並美徳 檀美知生
ピアノ 山下和子

第1部

- ・プロローグ
私の好きなこの街
- ・男声合唱団「昴」
シルクロード（ソロ千秋昌弘）
歓びのナーダム
乾正明ソロ（淀川三十石舟歌）
百万本のバラ（ソロ檀美知生）
- ・絵手紙のお話
「心のかけはし」著者 永井喜代子
- ・絵手紙合唱団
風の花の色
絵手紙

・みんな歌う会

上を向いて歩こう 三日月スマイル
見上げてごらん夜の星を
北国の春 明日があるさ
歌唱指導：私の好きなこの街

第2部

- ・檀美知生ソロ
落葉松
おらあ こごがいい（創作曲・初演）
- ・男声合唱団「昴」
ねがい
フィンランディア
- ・全員合唱
私の好きなこの街

司会 石橋章一 村嶋由紀子
歌う会司会 乾正明

P A 「ふきのとう」J高橋
演出 村嶋由紀子

□最後に皆で「私の好きなこの街」を合唱したあと、記念品を引き換えてもらい、出口で一人一人と握手して見送りました。皆さん眼を見て温かく握り返して下さいました。来場の皆さん、暗い道を、寒い中来て頂いて、有難うございました。お互に楽しく、元気のできるひと時を持てたのではないでしょうか。一同、皆さまから逆に元気をいただき感謝しております。



□会場とピアノ、PA、照明、暖房、畳、シート、椅子などを教育委員会様、第一中学校様に提供していただいたおかげで、この支援コンサートが成り立ちました。お忙しい中ご面倒をおかけしました。厚くお礼申しあげます。

□会場の原形復帰の片づけに一汗かいたあと、復興カフェ「うふふ」で打上げをしました。元気なママさんとお手伝いのお友達がコンサート会場から戻って、我々を迎えてくれ、ここでも楽しく反省会と交流をしました。

□「ホテル三陽」に帰っても、呑み足りない、語り足りない男どもが若い運転手さんを交えて、J高橋さんと檀さん差し入れの地元銘酒、橋本さん差し入れの生マッコリなどをたしなみつつ、遅くまで反省会を継続して、他の宿泊客もいるので静かにして下さいと注意されたりしました。

□昂のHPの訪問客**30,000人目**は西島さんがめでたく射とめて、夕食の席で、本並さんから祝福の記念品が贈答されました。岩崎さんは**29,999人目**だったそうで、残念。

……………そして、次の日 「IN大船渡」……………

□翌朝「ホテル三陽」を立って同じバスで隣町の大船渡市に向かいました。昨日の陸前高田市は市街地が低地だったため、津波にさらわれ、死者不明者は2万4千人余の人口のうち1800人余、一面の更地になってしまうほど一番被害が大きかった市ですが、今日の大船渡市は海岸部の高低差が大きく、比較的被害が少なかったとはいえ、死者不明者は566人、避難者は一時8,400人余で4万人の市の2割以上が避難生活を送りました。道は海拔が少し高いところを通って行きましたので、沿道の家屋は地震の被害は少しみうけられるものの、津波の被害はあまり見当たりませんでした。

□「私の好きなこの街コンサートIN大船渡」の会場は、大船渡の小高い丘の上に位置する、「養護老人ホーム祥風苑」内の大勢収容できるステージ付き集会室で開催しましたが、まわりにはすぐ近くに「特養老人ホーム富美岡荘」や「デイサービスセンター」など沢山の老人介護施設がある集合施設です。

□施設の入居者や職員のかたがたも含めて200人以上で会場が一杯になりました。わざわざ「歓迎横断幕」を作つて迎えて頂き、山崎シゲ会長のお年を全く感じさせない元気な歓迎の挨拶で開会しました。



□昨日の陸前高田と同じプログラムでコンサートを進めましたが、時間が1時間ということで、演目を少し割愛（落葉松、アムール、ねがい）しました。「おらあ ここがいい」は檀さんが歌詞を「大船渡の街よみがえれ！」と歌つてやはり涙と感動をさせました。歌う会は乾さんの司会で、「青い山脈」、「里の秋」、「北国の春」、「赤とんぼ」、さいごに「あしたがあるさ（乾バージョン・・・原発ゼロ！）」を歌いました。総合司会は、今日は石橋さんが一人で、やはり気の置けない大阪弁で仕切りました。

□サービス精神満点、明るさいっぱいの職員のお姉さんがいて、一曲ごとに大きな声援をしてくれていましたが、演目が終わったところで「それ！アンコール！アンコール！」と立ち上がって囃してくれたので、もう1曲、会場と一緒に「埴生の宿」を歌いました。

□閉会のあいさつで、今回のコンサートの橋渡しをしていただいた、「和の会（かずのかい）」の、粋な和服すがたの山口先生から挨拶を頂戴し、おなじく粋な和服の「和の会」代表の鈴木さんから、千秋団長に花束を頂戴しました。山口先生の事業所も自宅も津波被害をうけましたが、最近ようやく自宅を改修されて仮設住宅から戻り、使えなくなつた公民館のかわりに、集会所兼稽古場として地域に提供し、感謝されているそうです。これはマスメディアにも、大きくとり上げられました。

□当老人ホームでも、太っ腹な山崎会長が、「被災者はみんないらっしゃい！」と受け入れて、食糧や燃料調達などに職員一同走り回ったそうです。会長のお人柄のせいか、職員のみなさんも生き生きと活躍されていて、入居者もしあわせそうに見受けられました。因みに、当施設のモットーは「高齢者の尊厳を支えるケアをおこなう」という立派なものです。

□その後、会長、施設長、山口先生、鈴木代表をまじえて、記念撮影をしました。

□最後に「今日の日はさようなら」を歌いながら、皆、会場の皆さんとお別れの握手をして回りましたが、じっと手を握ったままなかなか放してくれない方もおられて、ちょっといいことをしたのかなと思つたりしました。



□昼食は施設の食堂をお借りして幕の内をたべましたが、お茶、コーヒー、ミカン、りんごを施設のほうからサービスしていただきました。りんごが美味しかったと皆。帰りのバスには、ドリンクや缶コーヒーを施設からたっぷり差し入れて頂き、あれこれ申し訳ないぐらいのお心遣いを頂戴しました。これでは逆で、恐縮しました。本当に有難うございました。

□これで、予定は全部終了して、一路帰路につきましたが、関西合唱団の佐藤さんは残ってボランティアをされるそう（えらい！）で、施設でお別れしました。

□帰りのバスは途中の一関で降りる人を中心に、感想など挨拶のマイクを回しましたが、一様に、充実した経験に勇気をもらったこと、それはひとえに、檀さん、村嶋さん、千秋さんの、井戸掘り耕し種まきしていただいたおかげであると、感謝の念を述べました。

□檀さん村嶋さんご夫妻には2度にわたって現地に入ってなんのつてもないところから出発して、調査交渉を切り開いていただき、さらに「日うた」の前日に3度目の現地入りをして調整・確認をしていただきました。それから千葉へとてかえして、「日うた」に出演した後、皆と一緒に本番の4度目の現地入りをしていただきました。その間、ご母堂の看病からご逝去にいたる大変なお悲しみと心労の日程の中で、現地との折衝、ピラの作成から配布の手配、仙台への移動バスのお世話、宿の手配、打上げの手配、演出の活動、記念品の手配、マスコミ手配対応＊1、さらには今回のコンサート向けの創作曲を作るなどなど、獅子奮迅・快刀乱麻・東奔西走の大活躍をしていただきました。体力・金力・知力だけではとうていなしうることではありません、ご夫妻の被災地との絆への想い、不退転の熱意こそ今度の企画の成功の基であったことは言を待ちません。おかげさまで、得難い体験をつうじて、また明日への一歩を踏み出す勇気をもらいました。一同深く感謝申し上げます。